令和３年度

全中道研　会報

No.２　令和３年９月１日

全日本中学校道徳教育研究会

令和３年度 道徳教育推進教師育成講座を終えて

令和３年度 全日本中学校道徳教育研究会
会長　吉田　　修

コロナウイルスデルタ株による感染拡大により日本中の人々が感染を恐れる一方で、未来と希望の象徴であるスポーツの祭典　東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。コロナ感染拡大とオリンピック・パラリンピック開催は相反する関係に捉えられることがあります。そしてオリンピック・パラリンピックの開催の在り方とコロナ感染拡大の抑制に関するニュースが毎日報道されていました。どちらか一方をとるともう一方は成り立たないが、両方とも十分に行える手立ても見つからない。スポーツの祭典と医療の両立に苦慮する人々の姿を、報道を通して目の当たりにしました。

ともに国を挙げて取り組んでいる大事業です。その中心で事業を推し進めている人たちでさえも全国民に納得できる答えを示すことができたのだろうか、考えてしまいました。

学校も日々苦慮し、学校教育活動を少しでも充実さるために工夫をしながら取り組んでいます。それに対し生徒たち自身も少しでも充実できる学校生活を得ようとしていると思います。困難な環境であっても人間はより良い方向を目指して過ごしている姿があるのではないでしょうか。苦しい時期を越えればその先には未来が、希望があるから頑張れる。そのような姿に人間の本質を見いだすことができるのではないでしょうか。

さて、今年度は昨年度実施できなかった道徳教育推進教師育成講座を行うことができました。本講座を受講された皆様、受講者を推薦していただきました理事、関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。今回の講座は、今までと異なりオンライン開催でした。二日間にわたり道徳教材では誰もが知っている「二通の手紙」について多様な指導法の在り方について議論しました。今まで行っていた方法にできる限り近づけた研修を考え、全中道研事務局が工夫した取組であったと主催者ではありますが一定の評価をしています。

具体的には、二日間に渡り受講者にはグループごとに協議し、協議内容を発表する。受講者にとっては最も主体的な学びになる場面です。１日目には文部科学省、飯塚教科調査官から講演をしていただきました。受講者にとっては、今までの学びを振り返り、知識を確認、取り入れる場面であったと思います。２日目の最後には、麗澤大学特任教授鈴木明先生から講評をいただきました。受講者にとっては、研修での学びを確認し、新たな学びと実践につながる場になりました。

研修に取り組む前向きで意欲ある受講生と文部科学省飯塚調査官、麗澤大学鈴木特任教授のご指導により充実した研修になったと感じています。お二人の先生方に感謝いたします。

困難だと考える環境であっても互いに知恵を出し合いながら進め、受講者をはじめ、関係者の多くが先を見た前向きな取組に満足することができた有意義な道徳教育推進教師育成講座であったと思います。

＜　道徳教育推進教師育成講座の報告　＞

令和３年８月５・６日の２日間にわたって、オンラインによる講座を行いました。各地区の研修と重なっていたこともあり、全地区からの参加とはなりませんでしたが、延べ４０名弱の方にご出席いただきました。

１日目は、まず文部科学省、飯塚教科調査官から、「『考え，議論する道徳科の授業』の充実に向けて」と題して講演をしていただきました。

【　講演の概要　】

１　道徳科で「考え、議論する」のはなぜか

このことについては、「道徳性の諸様相」について再確認しました。また、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実する等、「考え、議論する」中で道徳性は育まれることも整理し

ました。さらに、要としての道徳科の果たす役割や、そのためにも全体計画、別葉等の活用の必要性についてもご指導いただきました。

２　道徳科の授業の充実に必要なこと

このことについては、（１）道徳科の目標（２）道徳科の内容（３）ねらいの明確化（４）発問の工夫（５）ICT の活用（６）道徳科の評価の６項目について指導いただきました。特に、「ねらいの明確化」「発問の工夫」については、教師の道徳的価値の理解が重要であり、「自分事として考えているか？」「多面的・多角的に考えているか？」を意識して組み立てることが大切であると指摘されました。また、ICT の活用の活用や文部科学省が発信しているサイトについての紹介もありました。

2　道徳科の授業の充実に必要なこと　44

➢道徳科の学習指導過程とICTの活用

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、問題意識をもつ。	・実態や問題の提示
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・自分自身との関わりで考える。 ・多面的・多角的に考える。 ・自己の（人間としての）生き方についての考えを深める。	・教材の提示 ・自分の考えをもつ ・他者の考えを知る ・話し合う(対話) ・自己を見つめる
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	・生活の様子の提示 ・外部の方の言葉の提示

【　グループ協議の概要　】

○　問題解決的学習でねらい迫る

○　多面的・多角的視点をクローズアップしねらいに迫る

○　C 遵法精神、公徳心が本来持つ意味を考え、その考えのもと広げ深める授業を行えないか考える

○　自分なりの納得解にたどり着くための思考する深める授業を考える

といった例示をし、従来型指導とは異なる指導方法を考えるという視点から、４～５名のグループで協議を行いました。

１日目のグループで３時間強、２日目は新たなグループで３時間の協議を行い、指導案を作成しましたが、多くのグループが主題名や中心的な発問の議論にかなり時間をかけていました。

ぜひ、知恵を出し合って考えた指導案で実際に授業をしてほしいと思います。

【　グループ発表の概要　】

グループ１

＜諸様相＞

道徳的判断力

＜展開の流れ＞

・元さんはどうすればよかったか

◎動物園にはどうしてルールがあるのか

・あなたはルールとどう向き合っていきたいか。

グループ２

＜主題名＞

きまりを守ることの意義と難しさ

＜ねらい＞

きまりの意義・判断力

＜中心的な発問＞

元さんの「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だろう。

グループ３

＜主題名＞

法やきまりの意義

＜ねらい＞

法やきまりの意義の理解を深め、社会生活の中で守るべき正しい道としての公徳心を基に、規律ある社会生活の実現を目指そうとする判断力を育む。

＜中心的な発問＞

世の中にある法やきまりは、何のためにあるのだろうか。

グループ４

＜主題名＞

〈きまり〉が守るもの

＜ねらい＞

法やきまりの意義の理解を深め、様々な状況での道徳的判断力を養う。

＜中心的な発問＞

元さんが言った「初めて考えさせられることばかり」とはどんなことだろう。

グループ５

＜主題名＞

きまりの意義

＜ねらい＞

規則の意義について理解を深め、規律ある社会を築くための道徳的判断力を育てる。

＜中心的な発問＞

停職だったのに、なぜ辞職したのだろうか。

グループ６

＜主題名＞

きまりが守るもの

＜ねらい＞

法やきまりを守ることの意義を理解し、規律ある社会を実現するための道徳的判断力を養う。

＜中心的な発問＞

懲戒処分はやめなくてもいいけど、なぜ元さんは自ら動物園をやめたのか。

グループ７

＜主題名＞

きまりを守ることの意義

＜ねらい＞

元さんの行動と心の揺れを通して、法やきまりを守ることの意義を理解し、規律ある社会を築くための道徳的判断力を育てる。

＜中心的な発問＞

あなたが佐々木さんなら、入園させようとする元さんにどんな言葉をかけますか。

グループ発表後に、全中道研顧問であり、現在、麗澤大学特任教授でもある鈴木先生から、指導・講評をしていただきました。グループごとにもコメントをしていただき、受講者も大変参考になったと思います。

【　指導・講評の概要　】

「教材の人間を読むとは、作者がどのように作っているのかを読むことだと考えている。特に自作資料の場合は、作者の経験に基づいているものが多い、そういう意味でも教材を分析する際には、人間を読むことが大切だと考えている」と話されました。

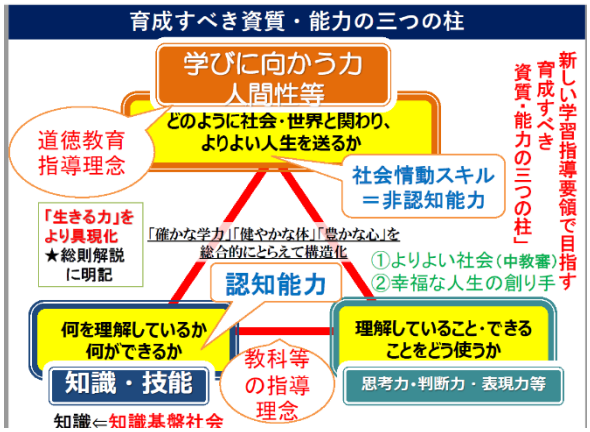
二通の手紙は、当初、懲戒処分ではなく解雇通告だったが、「私たちの道徳」に掲載する

際に懲戒処分という形に修正されたといったお話しも披露してくださいました。

後半では、世界の道徳や、世界の中の日本、次世代を担っていく生徒たちに、グローバルな視野を持って、道徳教育をしていくことの必要性についても触れられました。

受講された先生方の感想の中には、高校「倫理」の教科書の巻頭言として、詩人の長田弘氏の「考える ということは理屈をつけることではなく、 深く感じる ということである。深く感じる力 を自分の中に育てられないと何も見えてこない」という言葉を引用され、考え、議論する道徳科について整理された点について、改めて考えさせられたというコメントが多くありました。

指導・講評の中では直接触れる時間がなかったほど豊富な資料を提供していただき、改めてじっくりと目を通すことで、これからのみなさんの取組に生かすことのできる内容だったと感じています。



【　受講者の声（抜粋）　】

○　育成講座の全体の感想

回答された受講生全員が「大変参考になった（大変勉強になった）。」と答えました。

○　グループ協議について

回答された受講生全員が「大変参考になった（大変勉強になった）。」と答えました。

○　講話について

・土台をしっかり作って授業を考えなければならないと思った。授業をつくる中で諸様相が道徳性の基盤となることを、研修を通して勉強できた。改めて、学習指導要領の見直をしていきたいと思った。

・ねらいに迫るための手だてとして発問をどのように考えるかということに関しても、教師の目線のみで考えず、生徒からの発言や考えを予想しながら作っていくことの大切さも、授業を構想していく中で重要であることを学ぶことができた。

・道徳教育について、形式だけではなく、内容をどう充実させるのかという具体的な取組や指導についてのお話がとても参考になった。内容項目の発達段階に応じた指導や、ねらいの設定、ねらいに迫るための手立てを考える上で大切なことや、学校全体としての指導の重点化など、２学期からの取組に生かしていきたいと思う。

○　グループ協議について

・他地区の先生方と、一つの指導案を作っていく中で、様々な実践例や手法などがあることを学んだ。自県だけの実践だと不十分だと思う点や、こうしたらもっとよくなっていくだろうと思うことが多々あり、非常に勉強になった。

・全く知らない先生方と、県を越えてつながり、一緒に指導案作成ができたことは意義が大きかった。２回作成する機会があっても足りないくらいだったことから、一つの教材への見方、読み取り方、ねらいへの迫り方は多岐に渡ると感じた。様々な切り口

があって、充実した時間だった。最終的には、全部のグループの考えを聞いてさらに深めることができた。私たちにとっての「考え議論する道徳」の研修だったと思う。

・コロナ渦でこれまで実施されていた研修会等がほぼ実施されなくなった中で、他県の先生方と交流できる機会をいただき、様々な考えに触れることができたのは、これからの道徳の授業づくりに向けてとても参考になり、よい刺激となった。

・初日のグループ討議では、実りある熱のこもった意見交換ができて、とても勉強になった。普段、学校ではこれくらい真剣な討議はできず、市内の研修でも１つの教材についてこれほど多様な意見が出てくることは少ないので、従来の指導方法とは異なるものをというテーマで、再構築できたのはとてもよい学びだった。

・飯塚先生の講話の内容を実践しつつ、各都道府県の代表の先生方と話し、視野の広さや発想の転換の素晴らしさを目の当たりにし、自分の勉強不足さを実感した。「二通の手紙」のねらいに多くの時間を割き、検討したことで中心発問やその後の展開が考えやすく、改めてねらいの大切さを実感させらた。２日目のグループ協議でも１日目とは違った指導案が仕上がり、話合いをすることでこんなにも授業の幅が広がることに感動した。自分自身、一人で考えてしまう傾向があるため、この研修をきっかけにいろんな先生と話をしながら授業を作っていこうと思った。

○　指導・講評について

・教材の人間をよむ（作者の意図を含めて）ことで、道徳の本質的な部分に迫ることができることが分かった。実践報告の「佐々木さん、何もしなくていいの？」という生徒の発言は、集団意識がよく育っている証だと感じた。遵法精神。公徳心など、社会人になるために考えることの大切さをあらためて考えることができた。

・多方面からの話をたくさん聞けて、道徳教育を改めて面白いと感じたし、もっともっと話を聞いていたいなと思った。　推進の立場として、より精進したいと考えた。

・講演の中で、豊富なご経験の中から具体的な授業展開を話され、とても分かりやすかった。特に、作者についての話を聞き、この教材のことがもっと好きになった。　また、１つ１つのグループ発表にも触れてくださり、２日間の努力が報われ、２学期に生徒と一緒により充実した道徳の授業をしていきたいと強く思うことができた。

○　運営についての意見

・web での開催はとてもよかった。面と向かって顔を合わせることもメリットだが、遠方だと現地に赴くことだけでも非常に大変さがある。オンラインを有効に活用するという意味でもこのような web での開催はよいのではないかと思う。

・web での開催はとてもスムーズで、「共有」機能を使うことで資料を提示しながら話をすることもでき、不都合なく研修を進めることができた。

・運営もスムーズでとても勉強になった。直接会って、議論することもいいですが、オンラインだと、いろんな資料を手元の用意し、それを引っ張り出して考えられるので、それはオンラインの良さだと思った。同じグループで、データを共有したいとき（画面で見合うだけでなく、データがほしいとき）の方法が、何かあればありがたい（グループの中で書記をしてくださった方のデータをメールで送信していただくなど）。

　全中道研として、オンライン研修という初の試みが、それなりに効果的で成果があったことをうれしく思います。
　いただいたご意見を参考に、さらに充実できるよう検討して参ります。
　ありがとうございました。